

小豆島町学校ICTレポート

タイピングを学ぼう

今回は、キーボードによる入力の話です。キーボードを使った入力をタイピングといいます。特に手元を見ず、画面だけを見て入力するタッチ・タイピングを覚えると、視線の移動なしで文字入力に集中できて疲れも軽減できます。

○タイピングの現状

2013年10月から文部科学省はコンピュータを使用した情報活用能力を測定する初めての調査を行いました。対象は、全国の小学校5年生と中学校2年生、それぞれ約3,300人ずつです。この調査で、キーボードを使った文字入力について、小学校5年生の平均が1分間に5.9字、中学校2年生の平均が1分間に17.4字でした。

文部科学省の教育の情報化に関する審議会では、小学校高学年で10分間に200字の入力（日本語ワープロ検定の4級相当）、中学生で10分間に300字から400字を入力（日本語ワープロ検定の3級・準2級相当）できることが望ましいとされています。

○ローマ字入力

小学校3年生でローマ字を習いましたが、キーボードに描かれているアルファベット通りに英語も日本語もキー入力する方法です。以下のメリットがあります。

- 英文と日本語文を同じ入力のできる
- 覚えるキーの数が少ない
- ホームポジション(図参照)からの指の移動範囲が比較的少ない

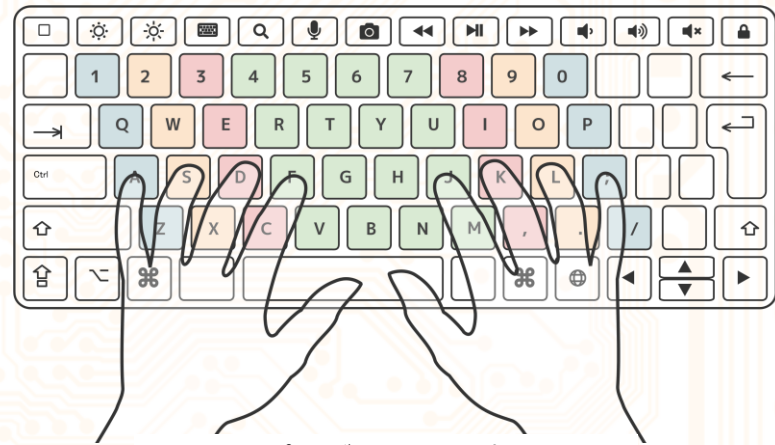


図. タイピングのホームポジション

○タッチ・タイピングを習得すること

最初は手元を見ないで文字を打てることを目標にします。指は左手を「a s d f」の上、右手を「j k l ;」の上に置きます(ホームポジション)。「f」と「j」のキーには突起がついているのでここに人差し指を置きます。手元を見ないようにタオルやハンカチで手元を覆い隠して練習してみてください。文字位置がつかめたら短い単語入力をチャレンジしてみましょ。

○小豆島町の小学生・中学生の皆さんへ

タイピング練習アプリは、ロイロノート・スクールの小豆島町共有フォルダの中にあります。毎日5分程度、継続して練習するのがタッチ・タイピングを習得する早道です。

小豆島町の目標

全児童生徒が1日1時間はiPadを使った授業を受ける